無聊吟社句集

無一庵　鹽野奇零

道端に風呂を焚きけり麥の秋　江南
夏の山雲の中より水の音　同
晝暗き祠一宇や夏木立　千代女
猿を背に假寢の人や夏本立　同
羅や舞の女の紅扇　嶺松
砂白く根上り松や磯涼し　同
石刻む寺の後ろや閑古鳥　峯月
夏草や草鞋の濡るゝ朝の道　同
子子やぶつ〳〵と湧く水の泡　古泉
物賣を取卷く道の日傘かな　同
若竹や寺にこもりて寫し物　其聲
百合咲くや草の中なる道祖神　みつ子
山越えて重たき足や夏かすみ　同
螢狩二た手になりて田甫道　仙人
月出でゝ篝火白き鵜舟かな　同
麥藁の帽子も古りて小役人　芳山
雨に濡るゝ石燈籠や蝸牛　同
年若き銀行員や夏羽織　同
手をのべてマッチさぐりぬ蝙の外　同
笠取れば紐の跡あり顏の汗　南庄
竹植て月のさしけりガラス窓　同
氣味惡き無住の寺や蚊喰鳥　同
下駄で踏む淺瀨も出來て夏の川　ます女
蟬啼や松から晴るゝ俄雨　學洋
子心に年寄も出てほたる狩　同
旅をして見れば淋しき閑古鳥　同
旅僧の晝寢の笠を羽蟻かな　同
磯馴の松風涼し夕月夜　曉霞
夕立の跡心地よし田甫路　同
蓮の香や白衣の行者寺に入る　同
初茄子赤前垂に二ッ三ッ　同

追加　無一庵奇零

藤蔓に片手伸して苦清水
夏の川漁師の妻の丸はだか
短夜や旅に明けたる若夫婦
晝の雨乾く匂ひや夏の菊
軒先に風呂焚く煙や蚊喰鳥

ぶらんこや櫻の花を持ちながら

（一　茶）